



PTAスローガン『「みんなで創り、みんなで守り、みんなで育てよう」  
～できることを 全ては子どもたちのために～』

## 日没時間が早くなってきました

2学期が始まり9月になったら、あっという間に秋めいた季節になりました。それと同時に気づくと日没時間も早まり、これからは天気にもよりますが、午後6時くらいにはかなり暗くなってしまふようになります。

日没時間が早くなってくると、交通事故や不審者といったことが心配されます。

また、兵庫県神戸市では小学1年の女子児童が誘拐され、殺害され死体が遺棄される事件が発生しています。今年はこの事件に限らず、全国で小学生が被害に遭う誘拐事件が多く発生しています。

今回は、夕暮れ時の交通事故に対する注意点と、誘拐事件に遭わないためのポイントについて特集していきます。

## 秋になると死亡事故が増える?!

### ◆ 夕暮れ時の交通事故に注意しましょう

一年のうちで交通事故の発生件数は、秋から年末にかけて多くなる傾向があります。薄暮時間帯の交通死亡事故も多くなり、特に道路横断時の交通事故が増えてきます。

道路横断しようとする歩行者からは、走ってきている車ははっきり見えるものの、ドライバーは薄暗くなっているために横断している歩行者を発見するのが遅れてしまうからです。

これは、人間の目は明るさの変化に弱いので、まだ日が陰りはじめたばかりの時間というのは、見えているつもりでも目はその明度にまだ慣れていないからなのだそうです。

つまり、**よく見えていないことに気付いていない→油断する→事故が起きる**というわけです。

秋から冬にかけて、子どもたちの帰宅時間に当たる午後4時～5時ごろは、まだ明るさが残っていたとしても、ドライバーからは歩行者がよく見えないのだと、話して聞かせてあげてください。

交通事故は、子どもだけが気を付けていけばいいというわけではありません。そこで、注意してもらいたいポイントを挙げてみましたので、親子で話し合い注意しましょう!

#### <子どもが注意すること>

- ・ 友達と遊ぶときは、街路灯が点く(暗くなる)前に帰宅するように教える
- ・ 車の後ろや物陰からは道路を絶対に横断しない
- ・ リフレクターを掲げる、ズックや帽子に反射テープを貼るなど反射材を活用し、ドライバーに自分の存在を知らせる
- ・ 自転車に乗るときは、暗くなるまえにライトを点けて乗る

#### <大人(ドライバー)が注意すること>

- ・ 帰宅時間を確認してから、自宅から出かけさせる
- ・ 帰宅時間が遅くなる場合で、時間に余裕があるときは迎えに行く
- ・ ヘッドライトの早め点灯を心がける
- ・ 子どもの姿を見かけたら、車のスピードを減速する



# 子どもが狙われる事件が増加しています！

## ◆ 子どもが狙われています

平成 26 年度の警察白書によれば、平成 25 年度に13歳未満の子どもが被害者となった犯罪件数は2万 6,939 件で、前年より 1,327 件増えています。平成16年以降減少傾向にあったものの、昨年から一転、増加に転じました。

「不審者」と聞くと“声かけ事案”を連想しがちですが、山形県でもわいせつ行為や傷害といった、子どもが直接的な被害に遭う割合が高くなってきています。

## ◆ 前兆事案や危険情報を共有する

今回の兵庫県神戸市や岡山県倉敷市での誘拐事件では、前兆的な情報や犯人の近隣とのトラブル情報などが報道されています。

全ての誘拐事件で前兆事案があるとは限りませんが、犯人にしても「誰でも良かった。」ということはないはずです。例えば、わいせつ行為を目的にしていれば、少なからず子どもを探し選んでいることが想像できます。だとすれば、誘拐事件が発生する前には、通常の人とは違う行動パターンの人や車がいる可能性が高くなります。

また、近所とのトラブルが多い人も、一般的な感覚の大人とは違う思考で生活しています。普通では考えられない理由で、子どもに対し危害を加えるかもしれません。

そうやって考えると、日頃の「ちょっと変かな?」、「人気(ひとけ)のないところに、見慣れない車が最近停まっている。」など、当たり前と違う光景を目にしたときは、要注意ということになります。つまりは、思い過ごしかもしれないようなことでも、「気になる」ことがあるときは、小学校に連絡したりして、お互いに注意喚起することも大切なことです。

## ◆ 被害に遭う時間や場所などの傾向は？

被害に遭う時間帯は、断然下校時間帯以降になります。そして、子どもが一人になる場所や時間で危険性が高くなる傾向になります。

交通事故などの危険性を考慮して通学路が決められていますが、誘拐犯人にしてみれば通学路自体が子どもを探す場所になっているといえるかもしれません。通学路にいれば必ず子どもと接触できるわけで、その中で子どもが一人になって帰るルートや時間帯、人目につきにくい場所やタイミングを見つけることができちゃうわけです。

通学路で次のような場所などがいないか、チェックしておきましょう。

- ・ 下校方向の関係で、どうしても一人で帰らなければならないルートがある
- ・ 通学路脇の公園などで、樹木などが生い茂り視界を遮るものがある
- ・ 街路灯が少ない、街路灯の電球が切れて暗くなっている場所がある
- ・ 人家が少なく、人目につきにくい場所がある
- ・ 落書きが多かったり、ゴミが散らかっていたり、照明が暗い人道ボックスがある

## ◆ どんなことに注意すればいいの？

「子ども一人にならない」が大原則です。安全の約束「いかのおすし」のほかに、車に連れ込まれないようにするため、次のことに注意するようご家庭でも話し合いましょう。

### <不審者に狙われない歩き方>

- ・ 下を向いて歩かない
- ・ とくとき振り返って背後を見る
- ・ キビキビと早足で歩く
- ・ 停車中の車からは離れて歩き、話しかけられたら距離をおく
- ・ 一人になったら防犯ブザーを手に持って警戒する

